

2026年2月27日

報道関係者各位

計3枚

**国際基督教大学 本館が
第35回 BELCA 賞（ロングライフ部門）を受賞**

戦争の遺構から平和の学び舎へ。70年超の歴史を刻む校舎の「維持保存」と「活用」高く評価



国際基督教大学（東京都三鷹市、学長：岩切正一郎）の大学本館は、公益社団法人ロングライフビル推進協会が主催する「第35回 BELCA（ベルカ）賞」において、ロングライフ部門を受賞いたしました。

本学における同賞の受賞は、第32回（2023年）の「ディッフエンドルフアー記念館 東棟（ロングライフ部門）」に続き、2度目の快挙となります。今回の受賞は、歴史的背景を持つ建物を、長きにわたり適切な維持管理と時代に即した改修によって使い続けてきた、本学の一貫した「スチュワードシップ（与えられた資産の責任ある管理）」の姿勢が評価されたものです。

■受賞建築物：国際基督教大学 本館

ICU 本館は、第二次世界大戦末期の1944年に「中島飛行機三鷹研究所本館」として建設された建物です。戦後1953年のICU 献学（開学）に伴い、この「戦争のための建物」は「平和のための大学校舎」へと生まれ変わりました。以来70年以上にわたり、本学の教育・研究の中心施設として使用され続けています。2024年から2025年にかけて大規模な耐震改修や機能更新を実施しましたが、これらは単なるリノベーションにとどまらず、建物の寿命をさらに延ばし、次世代へ継承するための長期的な保存・活用計画の一環として位置づけられています。

また、2026年2月には、国の登録有形文化財（建造物）に登録されました。

問い合わせ先：

国際基督教大学 (ICU) パブリックリレーションズ・オフィス（担当：小瀧、森川、吉良）

Tel : 0422-33-3040 / Fax : 0422-33-3355 / E-mail : pro@icu.ac.jp

■評価されたポイント（ロングライフ部門）

- 歴史的価値の継承と活用：初期の外観や構造を維持しながら、大学校舎として 70 年以上使用している点。
- 長期視点に基づく維持管理：築古のコンクリート躯体を健全に保つための適切なメンテナンスと、時代ごとの教育ニーズに合わせた機能更新がバランスよく行われている点。
- キャンパス全体の保存哲学：スクラップ・アンド・ビルドではなく、既存ストックを慈しみ使い続けるキャンパス計画が実践されている点。



中島飛行機時代（1944 年）



現在の本館



大学本館への改修時(1953 年)



築古のコンクリート躯体の意匠を残した耐震改修や機能更新を実施

問い合わせ先：

国際基督教大学 (ICU) パブリックリレーションズ・オフィス（担当：小瀧、森川、吉良）

Tel : 0422-33-3040 / Fax : 0422-33-3355 / E-mail : pro@icu.ac.jp

■ICU と BELCA 賞の関わり（過去の受賞）

本学では、2023年に「ディッフェンドルフアー記念館 東棟」（設計：ヴォーリス建築事務所、1958年竣工）が、第32回BELCA賞（ロングライフ部門）を受賞しています。日本初の本格的な学生会館として建設された同館もまた、竣工時のデザインを尊重した改修と適切な維持保全が高く評価されました。今回の本館の受賞により、ICUキャンパスにおける主要な歴史的建築物が、相次いでその価値を公的に認められたこととなります。



ディッフェンドルフアー記念館 東棟

■BELCA 賞について

公益社団法人ロングライフビル推進協会が主催する建築賞。「ロングライフ部門」と「ベストリフォーム部門」の2部門からなり、日本の建築物の長寿命化に寄与する優れた事例を顕彰しています。



本館 2階ラウンジ

問い合わせ先：

国際基督教大学 (ICU) パブリックリレーションズ・オフィス （担当：小瀧、森川、吉良）

Tel : 0422-33-3040 / Fax : 0422-33-3355 / E-mail : pro@icu.ac.jp